

## <要旨>

スズタケは一戸町で伝統工芸である鳥越竹細工の原材料として利用されている。岩手県北地域では2016年頃から一斉開花・集団枯損し、鳥越竹細工の産地である一戸周辺では壊滅的な資源量の減少となった。そこで、本研究では生育地予測モデルおよび潜在生育地地図を作成することを目指して、基礎的なスズタケの分布調査および生育環境調査を行った。その結果、岩手県太平洋側北部には生存個体が分布することがわかった。また、スズタケの分布に影響を与えている要因は、積雪量（積雪が少ない）・傾斜角度（急傾斜地）・斜面位置（斜面下部）であると考えられる。この傾向を用いて生育地予測モデルおよび潜在生育地地図を作成することが可能となった。

## 1 研究の概要（背景・目的等）

スズタケは、イネ科タケ亜科スズタケ属に含まれるササの仲間である。稈（ササの茎）は高さ1～3mほどになり、直立することから編組品の材料として利用される。一戸町では、伝統工芸である鳥越竹細工の原材料としてスズタケが利用されている。鳥越竹細工の歴史は古く、江戸時代には文献に出てくるといふ。

スズタケは約120年に一度、一斉開花・結実し、その後枯死することが知られている。一度枯死すると、元のような群落に戻るまでには、20年以上かかると言われている（齋藤2020）。2005年ころの秩父地方を始め、全国的にスズタケの一斉開花が確認されている。岩手県北地域では2016年頃から一斉開花・集団枯損し（齋藤2020）、鳥越竹細工の産地である一戸周辺では壊滅的な資源量の減少となった。竹細工生産者が入手に苦慮し、廃業される方も出ているという。

岩手県北部ではわずかに残存している個体群が知られているが、その分布が明らかでない。また、現存量が少ないことから、スズタケの分布を広範囲で把握する必要がある。スズタケの分布を明らかにし、竹細工の原料であるスズタケの資源を確保することは地域の伝統工芸である竹細工の文化を守る上でも重要である。

そこで共同研究者である二戸農林振興センター林務室では、令和3年度から「鳥越竹細工用スズタケ資源確保支援事業」として取り組みを始めた。この事業は、(1)スズタケ資源現況調査および(2)スズタケ増殖技術の検討からなる。この事業はスズタケ資源の確保のために、それぞれ以下の目標のために設定されている。(1)は短期的なスズタケ資源の確保、(2)は長期的なスズタケ資源確保が目標となる。本研究は(1)短期的なスズタケ資源の確保のための資源現況調査の一部という位置づけである。

現存するスズタケ資源の分布を広域に検索する際に、悉皆調査は時間的コストがかかり、不向きである。そこで、本研究では生育地予測モデルおよび潜在生育地地図を作成することを目指して、基礎的なスズタケの分布調査および生育環境調査を行った。

生育地予測モデルおよび潜在生育地地図が作成できれば、

時間的コストがかからず、効率的なスズタケ資源分布把握が可能となる。竹細工の原料確保といった視点では、できるだけ時間的なコストをかけずにスズタケの分布を把握することは重要なことである。

## 2 研究方法

今回の研究では、大きく分けて2つの作業・調査が行われる。(1)ヒアリング、(2)現地確認踏査である。以下詳細に説明する。

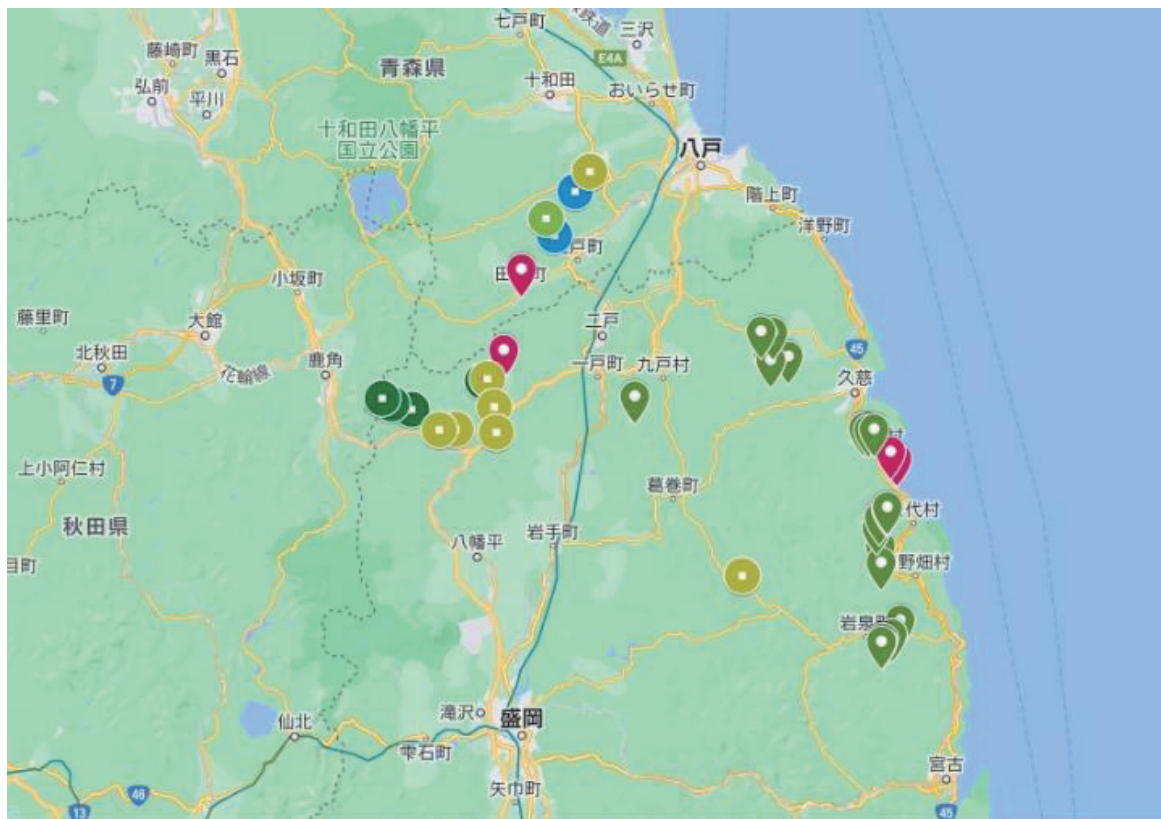
(1)のヒアリングでは、竹細工生産者や鳥越竹細工産地を守る会の方々を対象に、スズタケが残存している地点や以前見られた地点についてお話を伺う（ヒアリング）。この際、できるだけ広く多くの地点の情報を収集するよう努めた。対象者は鳥越竹細工産地を守る会の鈴木隆氏ほか竹細工に関わる方2名の計3名の方である。

その後(2)である現地確認踏査を行う。教えていただいた地点などに赴き、現地に生育しているササに関する情報（ササの種類・生残率・稈の高さ・おおよその広がり）と、現地の環境（斜面向き・斜面位置・傾斜角度・標高・周辺植生など）について情報を収集した。調査範囲は青森県田子町や三戸町、岩手県久慈市、野田村、田野畑村、八幡平市などである。一戸町や二戸市は、二戸農林振興センター林務室によって別途調査が行われるとのことだったので、調査範囲から概ね外した。調査は2021年5月～2022年2月に行われた。

## 3 これまで得られた研究の成果

今回の調査結果を図1に取りまとめた。スズタケの分布が確認されたのは、岩手県太平洋側の久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町であった。今回調査で確認されたスズタケは、生存個体がほとんどであった。

青森県内ではスズタケをほとんど確認することができなかった。岩手県北部でも八幡平市では確認されなかった。特に秋田県との県境近くの多雪地域ではチシマザサが分布し、太平洋側に分布の中心を持つスズタケは分布していなかった。



 : スズタケ (緑 : 生存, 赤 : 枯死)
  : その他のササ類 (濃い緑 : チシマザサ, 緑 : クマイザサ, 青 : その他)

図1 岩手県北部のササ類分布図

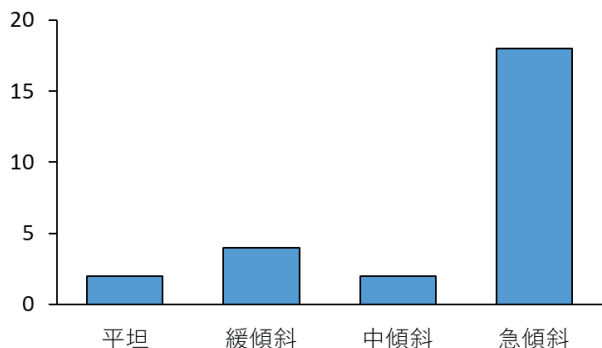


図2 スズタケ生育地点の傾斜角度

スズタケ生育地点の傾斜角度を図2に取りまとめた。生育しているのは急傾斜の地点が中心であった。また斜面下部のことが多かった。急傾斜地から連続する斜面下部の緩傾斜地にも生育が確認された。同所的に生育するクマイザサは緩傾斜地が連続するところに確認される傾向があった。金子ほか(2012)は、スズタケの分布域が沢近くである傾向があることを示しており、今回の結果も同様の傾向が認められた。

以上のことからスズタケの分布に影響を与えている要因は、積雪量(積雪が少ない)・傾斜角度(急傾斜地)・斜面位置(斜面下部)であると考えられる。この傾向を用いて生育地予測モデルおよび潜在生育地地図を作成することが可能となった。

青森県南部の今回の調査地点は、比較的緩傾斜地が多かったことから、スズタケが確認できなかった可能性がある。急傾斜地を狙って調査することで、スズタケの分布を確認することができると思われる。

#### 4 今後の具体的な展開

今回は青森県内などで分布調査が不完全となったところがあった。もう少しスズタケの生育地点を増やした上で、生育地予測モデルおよび潜在生育地地図の作成とその検証を行ってきたい。

#### 5 引用文献

齋藤智之(2020) 東北地方におけるスズタケの一斉開花. Forest Winds 82. [https://www.ffpri.affrc.go.jp/thk/business/arc/past\\_info/documents/fw\\_82\\_1-2.pdf](https://www.ffpri.affrc.go.jp/thk/business/arc/past_info/documents/fw_82_1-2.pdf)

金子悠哉・青田崇志・橋本和成・堀良通(2012) 小川群落保護林に同所的に生育する3種のササ(アズマザサ, ミヤコザサ, スズタケ)の分布と微地形の関係. 日本生態学会第59回全国大会講演要旨 <https://www.esj.ne.jp/meeting/abst/59/P2-042J.html>